

日本近世文学会のみなさま

## 「愛媛大学図書館 鈴鹿文庫貴重書展」のご案内

日本近世文学会秋季大会にあわせて、愛媛大学図書館所蔵鈴鹿文庫の展示をいたします。鈴鹿文庫は鈴鹿本『今昔物語集』旧蔵者鈴鹿連胤を曾祖父に持つ鈴鹿三七の旧蔵書です。そのため、吉田家関係資料、異本『方丈記』などの稀書があります。

日本近世文学会関係者だけでなく、関心をお持ちの方にご伝声いただければ幸いです。

期日 : 2018年10月17日(水) ~ 11月12日(月) ※火曜日休館  
会場 : 愛媛大学ミュージアム・エントランスホール

おもな展示品(予定):

### コーナー① —吉田兼好はいなかった—

『神道大意抄』(写本) 吉川惟足著  
『唯一神道名法要集』(写本)  
『唯一神道大要』(写本) 吉田兼見著  
『種生伝』(正徳2年刊)

### コーナー② —異本方丈記の世界—

鈴鹿三七は『方丈記』研究でも有名で、異本(略本)『方丈記』の諸本を書写収集した。

『異本 方丈記 中原本』(写本)

略本系の本文を持ち、閻魔法皇の記事があるので、基本は長享本系統だが、本文に異同がある。中原本とは、中原武次旧蔵で現所在未詳。『鴨長明全集』(平成18年)に採録された。流布本『方丈記』(正保4年刊本)と、三七の研究ノート『異本方丈記 校合』もあわせて出品した。

### コーナー③ —吉田兼俱ほか吉田家の著述 附 増穂残口—

鈴鹿三七は、吉田家の家老であった鈴鹿家の一員であることを意識しており、そのために三七はみずから吉田家関係の書物を蒐集している。また、吉田家の門人となったユニークな神道者・増穂残口の作品も収集、行方不明だった増穂残口の墓を最初に発見したのも三七であった。

『倭国軍記』(写本) 吉田兼俱著  
『神祇正宗秘要』(写本) 兼右の奥書本を延宝7年に書写。連歌師里村昌純手沢本。  
『神名帳』(写本)  
『中臣祓抄』(写本)  
『つれづれ東雲』(刊本)  
『異理和理あはせ鏡』(刊本)  
『直路の常盤草』(刊本、端本上巻のみ)

### コーナー④ —三七蒐集の稀少本—

#### 《古典書写伝来の家—『新撰字鏡』の副本—》

天治本『新撰字鏡』(写本)

連胤書写。安政年間作成、文字の配置、虫損の跡までを正確に複写する「古典書写伝来の家」と賞為が見られる。本書は長く昭和写本として等閑視されてきたものである。

『伴氏稿目』(写本) 連胤が書写した伴信友の著作稿本目録  
黒川道祐『日次紀事』(貞享年間刊) 三七の書き込み付箋がある。  
『夫木和歌抄抜書』(写本) 大阪の連歌師、西順自筆。木村兼葭堂旧蔵  
『狂歌百鬼夜興』(文政12年刊) 菊廼屋真恵美編

### コーナー⑤ 近世和歌資料 —鈴鹿連胤と香川景樹(桂園派)—

連胤は香川景樹の門人であった。

『桂園宗匠撰草稿』(写本)  
『詠草抜書』(写本)  
『桜十番歌結』(写本)  
『都のつと』(写本)